



いのちに合掌

慈眼

第31号

発行所
佐賀市西田代1丁目4-6
本行寺内
TEL 0952-24-1813
FAX 0952-24-1813

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
松野 邦 俊

昨年十月十九日、杵藤・有

田・伊万里地区檀信徒研修道場『護法の集い』が、メインテーマを「立正安国・お題目結縁運動」、サブテーマとして「いのちに合掌」と題し、武雄市円満寺（池永英寛住職）にて開催された。県内を四地区に分け、堅苦しくない親しみやすいミニ護法大会をということで始まった地区檀信徒研修道場も今回で三回目となり、今回は杵藤・有田・伊万里地区寺院が約一年前より池永実行委員長を中心として会議を重ね、当日、僧侶・寺庭婦人・檀信徒合わせて約二百名近くが参加した。

原田守檀信徒協議会委員の開会の辞の後、藤山英周伝道



▲地区寺院総出仕の法要

担当事務長、森永新二檀信徒協議会会長の挨拶を頂き、地区寺院婦人・檀信徒による法華和讃が奉納された。その後池永住職を導師に、地区寺院全員出仕のもと、法要が行われた。

法要後、梶原北天師（長崎県實相寺住職）の法話が行われ、自分がお寺に生まれ僧侶となるまでに頂いたご縁、僧侶となり今日に至るまでに頂いたご縁のありがたさを、ユーモアを交えながら分かりやすく話した。

「現在は、人の命の尊さを分からない人達がたくさんいるような乱れた世の中、物はあるふれていても、心が貧しい世の中になっていきます。それを正しい方向へ導くには私達僧侶と、檀信徒の皆様が一体となって、一人

でも多くの人に仏さまの教えを聞いて頂くご縁を結んでいくことが大切なのです。そうすれば、命の尊さを知ることのできる立正安国の世界へ一歩でも近づくことができるのです。これからも命に合掌しお題目修行に励んで参りましょう」と結び、伊万里妙頭寺檀信徒石井繁慶様の閉会の辞で幕を閉じた。

また、当日檀信徒により集められた義援金が、日蓮宗佐賀県社会教化事業協会によって被災地に送られた。尚、今年十一月二十九日（日）唐津・法蓮寺席にて多久唐津地区檀信徒研修道場が開催されます。



▲法話：梶原北天師

【特集】《大黒天》

法華経の守護神として鬼子母神とともに並び祀られ、また七福神としても広く親しまれている大黒天についてご紹介します。

大黒天は、恵比寿とならんで福德や財宝を与える七福神として広く親しまれています。ふっくらとした体型で顔に微笑を浮かべ、頭巾をかぶって右手に打出の小槌を持ち、左肩に大きな宝の袋を背負って、米俵の上に乗っている姿がお馴染みです。

しかし、もともとはインドの死を司る恐怖の破壊神で、暗闇の中に住み、恐ろしい姿をしていました。大黒天は、サンスクリット語で摩訶迦羅（まかから・マハーカラ）と言います。マハーは『大いなる』、カラ『闇黒』です。ヒンズー教ではシヴァ神が世界を灰にする時、この姿になるとされています。この神に祈ると必ず戦いに勝利するのでインドでは大いに信仰されました。その後、仏教に取り入れられて三宝を守護する戦闘神となりました。また、苦行する仏教徒には穀物を与えるとされ、食料や厨房を司る神としての性格も持つようになりました。

日本では、平安時代に天台宗の開祖である伝教大師が比叡山延暦寺に祀ったの

が始まりと言われています。この比叡山の大黒天の靈験の強さは有名で、各地に大黒信仰が波及します。さらに、出雲大社の御祭神として知られる「おおくにやのたま大黒命」が、「大黒」と同音であることで民俗信仰と習合していつしか七福神の一人に加えられる、江戸時代頃から現在のお姿になり、福の神として一般に広く知られるようになりました。

大黒天のお祀りの仕方は、通常、仏壇に入れず神棚に別に勧請します。年に6回ある甲子（きのえ・ね）の日が縁日です。この日に供物をささげ、法要を厳修しましょう。詳しくは、大荒行堂の第三行を成満された修法師の御上人にご相談なさってください。

食堂や台所にまつられることが多く、そこから転じて寺の婦人（僧侶の妻）を大黒さんと呼ぶこともあります。また建物を中心とする太い柱を大黒柱と呼びますが、これは大黒さまが天・地・人を守る事から屋台骨を支えるものをこのように呼びます。ちなみに大黒天が俵に乗っているのは「毎日ご飯を供えてお参りする

れば、一生、食に不自由はさせない」というお告げがあった話が残されており、米俵と結びついたようです。

日蓮大聖人も「真間釈迦佛御供養逐状」の中で「いっぞや大黒を供養して候しい其後より世間なげかずしておはするか（大黒天を供養してからは安楽に過ごしていらっしやいますか?）」とおっしゃっています。また、「大黒天神供養相承事」では「大黒天神を信ずる者は、現世安穩・福祐自在、疑なし。毎月毎日信ずること成り難き者は、六斎の甲子（60日に一度ある大黒天の縁日）に、供物を調べ、御祭祀あるべき者也。是れ秘中の秘なり」と大黒天を供養することを勧めております。皆様もぜひ大黒天をご家庭に勧請してお祀りしましょう。



◀大黒様

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑

(SOU-EN)

北 佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115
(0952) **30-4040**
FAX・30-4043

南佐賀草苑本庄 佐賀市本庄町大字本庄951
(0952) **25-1255**
FAX・25-1088

技術本位 佐賀の老舗 信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

『汝早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ。然ればすなわち、三界は皆佛国なり。佛国それ衰えんや。十方は悉く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。国に衰微なく、土に破壊なくんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん。この詞、この言、信ずべく崇むべし。』

立正安国論

日蓮大聖人の遺された著述、いわゆるご遺文の中で、最も有名と言っても差し支えの無い「立正安国論」の中の一説です。私達が、間違った信仰を改めて、全てのいのちを救う法華経に身をゆだねるならば、自然と仏様の世界へ近づいて行けるのである、と説かれています。

今の時代、新聞やテレビ等で、「現代人には信仰心が無い」という類の言葉を耳にすることがあります。しかし、「何かを信じて身をゆだねる」という行為は、実はそんなに特別な行いでは無いのではないのでしょうか。

今ではあたりまえになった携帯電話。携帯電話が、なぜ遠く離れた人と、直接線で繋がっているわけでもないのに話が

出来るのか。その仕組みを理解して使っている人は、かなり少ないのではないのでしょうか。いざ中身を説明しろと言われても、私達は疑問もせず、自分の生活に役立つから使っているのが現実なのです。

そういわれたらそうだな、じゃあ全てものを疑ってかかるか、と思う人もいるかもしれませんが、それはそれでとても大変な生き方になってしまいます。

自分が大切にしている様々なもの、家族や友人、生活の中で積み上げてきたものが、いつか自分を裏切るかもしれない、その価値が揺らいでしまうかもしれない、そんなことを考えながら生きて行くのは、

常に周りに気を張り続けねばならず、心が休まることはありません。私達が休憩をする時に、背中を預ける背もたれや床などが必要なように、心地よい生き方をするには、必ず何かしらの身をゆだねる存在が必要となってくるのです。

何かを信じて生きて行くということが特別でないのでしたら、私達は、何に身をゆだねれば、より良い生き方ができるのでしょうか。

日蓮大聖人は、世の中の出来事の良し悪しは、全て自分の心が決めているのだと仰られています。自分の心が怒りや悲しみで満ちていけば、目や耳につく全てが怒りや悲しみの対象でしかなく、逆に穏やかな心持ちで周りを見渡せば、どんなものでもありがたく、感謝の気持ちを見出せるのだと。その穏やかな気持ちを得る為には、法華経を信じ、南無妙法蓮華経とお題目を唱えることこそが、一番の近道であるとされています。

速やかに法華経の信仰の道に入ることこそが、より確実な心の安らぎ、安心を得ることができ、その穏やかな心持ちで世界を見渡すことができたなら、全てのいのちを大切にされる仏様の世界が、そこに現れてくるのだと、立正安国論で説かれています。

平成20年度・創業85年目、仏壇・仏具の総合専門店

光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



手を合わせるころを大切に・・・
山本仏具
佐賀市呉服元町 10-12 23-4308
〒840-0824 ☎ (0952)

- ・寺院用具一式
- ・前卓
- ・鏝金物
- ・宮
- ・登高座
- ・修復
- ・須弥壇
- ・経
- ・仏壇
- ・天人畫
- ・美術彫刻品
- ・仏
- ・幢
- ・宗教繪画
- ・神殿用具
- ・燈
- ・塗物
- ・其
- ・他
- ・佛像彫刻
- ・殿
- ・機
- ・具
- ・瑠
- ・者

身延・京都団参

日蓮宗では、平成三十三年に「日蓮聖人御降誕八〇〇年」を迎えるにあたり、『立正安国・お題目結縁運動』が展開されています。その重点項目の一つに「祖山総登詣」の実践が掲げられています。また本年は、「立正安国論奏進七五〇年」の節目であり、それを慶讃して京都国立博物館にて『日蓮と法華の名宝』と題し展覧会が開催されます。

この好機に日蓮宗佐賀県宗務所では、以下の要領で鎌倉・身延山・京都への団参が企画されました。檀信徒の皆様には一人でも多くの方にご参加戴きますようあらためてここに主な訪問地を紹介致します。

【鎌倉・妙本寺】

妙本寺は、日蓮聖人御自ら開かれた最初の法華堂に始まる。弟子の日朗上人はその後を継いで妙本寺の基礎を固め、鎌倉を中心に各地に教えを弘めた。七百有余年の歴史を物語るように、鎌倉市街からほど近くにありながら、境内は静寂なたたずまいを見せている。

【身延山・久遠寺】

日蓮宗総本山、宗祖棲神の地であり「祖山」とも称する。晩年の九年間を過ごされた身延での檀信徒へあてた書状の大部分は、教化に関するものであり、現

存するご真筆のご本尊百二十余幅中、実に百十四幅が身延でのご染筆である。弘安四年十一月二十四日に開堂供養・寺号公称された。同五年十月十三日の宗祖ご入滅後、「いづくにて死に候とも墓をばみのぶ澤にさせ候べく候」とのご遺命により、ご遺骨は身延山に納められた。以後数度の災害に見舞われたものの、近現代の大復興はめざましく、本年は五重塔の落慶もみた。



▲身延山大本堂



▲身延山祖師堂

【本法寺】

一四三六（永享八年）「鍋かむり日親」として知られる日親上人により創建された。天文法乱により一時堺に退避したが、一条堀川に再建された。京都旧市内では唯一の多宝塔をはじめ、本阿弥光悦・長谷川等伯筆の書画が多く格護されている。



▲長谷川等伯像

【日蓮と法華の名宝】

〜華ひらく京都町衆文化〜

本展覧会は「立正安国論」を軸に、京都十六本山を中心とした諸寺伝来の多くの宝物を一堂に展覧します。鎌倉新仏教の一翼を担った日蓮の足跡をたどり、その門下の活躍、特に孫弟子にあたる日像の京都布教開始以降、公家文化と並ぶ町衆文化の形成に果たした日蓮諸宗の大きな役割を紹介します。狩野元信や長谷川等伯、本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳、尾形乾山、こうした近世日本美術の潮流を築いた京都の芸術家達が、皆、法華の信者だったことは驚くべきことではないでしょうか。かれら名家の優品を通じて、日蓮諸宗と法華経信仰に支えられた京都町衆文化の奥の深さを再認識していただければと思います。

展覧会パンフレットより

【団参要領】

- ・実施日時 平成二十一年十月二十六〜二十九日
- ・旅行代金 十万四千元
- ・募集締切日 八月三十一日
- ・申し込み先 日蓮宗佐賀県寺院（菩提寺）
トップツアー（株）佐賀支店
- ・詳細につきましては各寺院配布の身延・京都団参チラシを御覧下さい。

総合葬祭 有限会社 黄城 黄城 黄城

葬祭会館 黄城代表番号 ☎(0952)-73-3938

光雲閣 ☎(0952)-73-2020

〒845-0022 佐賀県小城市三日月町久米2134-1 (JR小城駅西)

設計 石の雅 施工

www.ishinomiyaabi.jp

平川石材店

小城町上町 ☎73-4738

石材・墓石に関することは、すべてお任せ下さい。